

大堰と内川の歴史的価値について
The Outline of Ozeki-Headworks and Uchikawa
Irrigation System with the historical value

○青木 幹
Tsuyoshi Aoki

1 大堰・内川の歴史

内川がある岩出山は、宮城県仙台市から北に50kmに位置している。

内川は、独眼竜で名を馳せた伊達政宗によって開削された、歴史のある水路である（写真1）。

伊達政宗は、1567年8月に山形県米沢城内で誕生し、1591年9月、米沢城から岩手沢城に移り住んだ際に町の名を岩出山に改め、政宗は城下の整備、町割り等に着手し、内川の開削を行った。

城下町を取り囲むこの水路は、軍事上の理由もあり常に満々と水が流れ、利水が改良されたことで、この地域の農家は米を大量に生産し、伊達藩の基盤を支えることができた。

当時としては、広い受益面積を持ち、地域の基幹的水路として広範囲に渡り農業用水を供給していた。当時の内川は、高さ2.7m、平均幅は6.8m、水深は2.4mから1.5mほどで、その延長は9,405m、平均勾配1/260、構造は、土水路

（一部粗だ柵工）で整備がされ、内川に水を取り入れ、いつも満々と水が流れているような状況で城下を取り巻く内側に川があったと言うことで、内川と名付けられたそうである。この内川に水を取り入れるのが大堰頭首工で、高さ約14.4m、幅9mの木造取水樋門でこの堰は他に類をみない大きさということで大堰と呼ばれている（写真2）。

2 新田開発

政宗は、1603年仙台に移り新田開発に本格着手したが、北上川、迫川、江合川流域一帯は広大な低湿地、氾濫原であったため河川改修に着手した。（特徴：舟運を主体とし、治水工法ならず河道の安定と水位を出来るだけ保ち、船舶の運航を容易になるような河川技術を用いた。河道の直線化は極力避け、出来るだけ勾配を持たせない工法が採用された。）こうした工法は各地で広く用いられ、広域に亘る舟運の整備が図られた。

その結果、石巻港に米穀などが集められ、船舶により、新田開発分約40万石を本石米として江戸まで運ばれた（図1）。

大崎土地改良区 Osaki Land Improvement District
キーワード：農村振興、かんがいの歴史、中山間地域



写真1 改修以前の内川



写真2 明治42年まで使用していた木造樋門

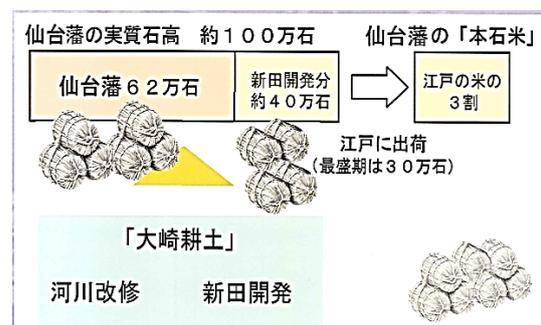


図1 江戸時代の仙台藩の米穀の状況

3 土地改良の夜明け

明治時代を迎え、近代化とともに、水は農業や生活用水だけでなく、産業の振興にも貢献するようになりました。

やがて大正時代を経て昭和へと移り、内川は変わることなく水をたたえ、人々の暮らしの一部となっていました。

かつては先進的な水田地帯であったものの、水田の整備が立ち後れ、機械化など十分に対応出来ない状況になってきたため、次期世代を担う農業を目指し国営かんがい排水事業により、内川を拡張、水量を増やす改修計画がしめされ、内川沿線住民に対して説明会が行われた。

内川は、すでに農業用水としての役割だけではありませんでした。歴史と伝統に彩られ、地域に暮らす人々の生活に深く関わりを持つ内川となっていました。内川改修計画が示された後、地域の人々との間に「内川を考える会（写真3）」が結成され、会の要望を取り入れ、景観に配慮した工事（写真4）が行われることとなりました。

4 内川の改修

現在の内川は、1991年に大崎西部地区国営かんがい排水事業と県営水環境整備事業の共同工事により大改修が行われた。

内川改修は、地域の方々とワークショップ的な検討会を行い、景観を重視した石積護岸とし、内川沿いには遊歩道や親水広場など親水性を高めるため沿線にある樹木を最大限保存するなどの計画を行い、農業用水路としての機能・親水空間としての機能を重視し、水路タイプは、景観を考慮した雑割石二面水路を基本とし、水路幅は現況と同じ又は同程度とし、現況水際線の確保に努めた。また、落差工には、深みを作ることで魚類の休憩、避難、餌場の確保を行い、魚巣ブロックについては鮎を対象魚とし、内川の最大流速は、 1.5 m/s として、魚類が遡上できる流速として改修が行われた。

5 内川の保全管理

工事が完了した1994年12月 地区親交会より、春先の清掃活動は親交会で行いたいとの申し出があり、800mの区間を親交会に作業委託をすることとなりました。その後、内川周辺の環境の保存、維持を目的に地域住民が一体となり「内川ふるさと保全隊」が組織され、内川清掃や、植栽の剪定作業を現在も行っている（写真5、6）。今後、内川をこれからどのように活かしていくべきか、土地改良区のみならず、地域の人々も歴史ある宝として、そして命の水としてこれからもかんがい用水を供給するだけでなく、景観の維持管理についても考えていかなければならないと考えている。

参考文献

内川写真集「四季滔々」、大崎耕土地域の土地改良「水との闘いとその克服」
上記文献は、東北農政局大崎農業水利事務所が企画作成した。



写真3 内川改修連絡協議会の風景



写真4 景観に配慮した内川



写真5 清掃活動状況



写真6 除草・清掃活動状況